

一人一人がいきいきと過ごせる 教育・保育活動への取組

習志野市立東習志野こども園園長 あら い き み え 荒井 喜美江



1 はじめに

習志野市立東習志野こども園は、地域の子育ち・子育て支援の拠点となることを基本理念に平成18年4月、開園した。そして、平成19年2月には千葉県第一号の幼保連携型認定こども園として認定された。現在は0歳児から5歳児まで206名の子供たちが在園している。

ここでは、本園の特色と今年度の取組について紹介したい。

2 本園の特色

(1)一人一人を大切に健康で豊かな心を育む教育・保育の実施

0歳児から5歳児までの発達の連続性を踏まえながら、「ワクワク」する体験を通し、子供たちが自己表現、自己発揮、自己充実できる環境づくりに努めている。

(2)四季折々の自然を楽しめる自然環境

春夏秋冬を通して彩どり豊かに花が咲き、虫が集まる園庭環境に恵まれている。野菜の苗を植え、世話をしながら生長を見守り、収穫をして味わう体験は食育教育につながっている。

(3)小学校や地域の関わりの中での広がり

近隣の小学校や私立保育園との交流では、ねらいを共通理解し、評価・反省を生かしながら滑らかな接続に向けて積み上げてきている。小学校とは門を隔てて行き来できる環境にあり、運動会の見学や3学期には学校探検などを行い、就学への期待を高めることで幼児期から児童期へのつながりを重視している。

3 園内研究を通しての取組

本園の園内研究では、保育者が「いきいき遊んでいる」と感じた子供たちの姿を写真に記録し、写真を基に「いきいきエピソード」と題して、保育者の様々な視点からの考えや意見を交換し、人的・物的環境、援助方法など子供たちに適した教育・保育につながるよう取り組んでいる。例えば5歳児担任が「折り紙遊びが盛り上がり、花を折る活動から花屋ごっこ、そして、お店やさんごっこに発展してきている。子供たちの遊びを達成感に結び付け、さらなる遊びの充実を図りたい」と提案した。その後エピソードトークを重ね、5歳児は「自発的行動」「発見」「認めや共感」「達成感」が「いきいき」の目指す姿であることを共通理解し、改めて事例から「いきいき姿」の振り返りをした。こちらの「エピソードトーク」事例は保護者にも掲示をし、保育者の思いを伝え、子供たちの成長を共に共有する機会にもなっている。



4 おわりに

子供たちは「遊んでみたい」「もっとやってみよう」と心が動くことで自ら遊びに取り組み、遊びを通して獲得した心と体の育ちは、達成感や満足感につながっている。そして、何事にも意欲的に取り組もうとする姿は小学校での学習や生活の基盤になると考える。今後もこども園ならではの発達の連続性を大切にしながら「一人一人がいきいきと過ごせる教育・保育活動」に取り組んでいきたい。